

# クラフト活動「焼き杉コースター」の教材追加について

## 1. 教材追加理由

たくさんのクラフト活動が活動資料集内に掲載され、教材としても準備されていますが、時間的には1.5h～2h程度の活動が中心となっています。利用団体の中には、フィールドピンゴやウォークラリー等の雨天プログラムにも対応できる、3h～4h程度のクラフト活動を要望されることがあります。そこで、3h～4h程度の活動時間を十分に使うことができるものの必要性を感じ、「焼き杉コースター」を教材として追加しました。

## 2. 教材の活動と教材がもつ教育効果

この「焼き杉コースター」では、次の二つの活動があります。

- ① 1mほどの杉丸太をのこぎりを使って厚さ1.5～2cmに切る。
- ② ガスバーナーを使って焼き目をつけて作品をつくりあげる。

この二つの活動には次のような教育的価値が潜在すると考えます。

- ◎ のこぎりを使う活動については、小学校中学年（3、4年生）の図画工作科の指導内容にあり、学習経験をしています。

小学校4年生以上の団体で活動される場合には、この既習学習で得たことを活かす場として、既習学習のさらなる習熟を図ることができます。

- ◎ 直径10cm程の杉丸太は、一人ではなかなか切れません。仲間が丸太を押さえたり、励ましの声を仲間にかけたりする協働活動が必然的に生まれ、協力の大切さを培う上からも有効な活動であると考えます。

また、仲間との協力という活動から、道徳の価値項目（思いやり・親切）（友情、信頼、助け合い）（勤労・奉仕）などの原体験として関連させて道徳の学習につなぐこともできるのではないかと考えます。

- ◎ のこぎりやガスバーナーという道具に潜む危険を知り、けが予防の方法をとることで危険を回避できる具体例を学ぶことができます。
- ◎ 道具の正しい使い方をすることによって、丸太を切ったり、焼いたりして作品を完成させることができるとも便利な道具であることを実感させることができます。
- ◎ 「焼き杉コースター」を自分でつくりあげたことや、仲間との協力でつくりあげた過程をとおして、自己有能感や自己有用感を実感し、自己存在感や自尊感情を高める機会につなげることができるのではと考えます。

## 3. 活動させる際の注意事項等

しかしながら、この活動には注意すべきこともたくさんあります。

- ▲ 3年生以下の利用者に対しては、のこぎりの安全な使い方について小学校の教科等の学習で学んでいませんので、のこぎりの安全な取り扱い方や正しいのこぎりの使い方の指導を活動の前に必ず実施すること。
  - ▲ カセットコンロボンベのバーナーを使って杉板を焼く工程があります。事前に団体のリーダーがバーナーの取り扱い方や火傷の恐れがあることを理解し、危険回避の方法や場づくりを団体の引率者で共通理解すること。
  - ▲ のこぎりを使って丸太を切る場所と、バーナーを使って焼く場所を離して設定すること。
  - ▲ バーナーの炎の向きが一方向になるように、焼かせる際の子どもの位置に気をつけること。
  - ▲ バーナー担当のリーダーが、目の届く位置でバーナーの使用をさせること。
- 以上の注意すべきことを十分に理解していただいた上で、教育効果が期待できる「焼き杉コースター」の計画をお立てください。

お問い合わせ、相談等、どんなことでも構いません。お気軽にご連絡ください。

国立夜須高原青少年自然の家 事業推進室 企画指導専門職まで  
電話 0946(42)5811(代) FAX 0946(42)5880

# クラフト活動「焼き杉コースター」指導要領

H23.5 月作成

## 【利用団体が持参する品物です】

- 家庭用カセットコンロ用ガスボンベ ※団体でまとめて
- 軍手（ゴムの滑り止め付きは不可） ※個人用
- 古タオル、古布など ※個人用

## 【利用団体が購入していただく教材と当日の準備や流れについて】

- 約1mのキャンプファイヤー用の丸太を注文します。※食数票の教材欄に記入（6人程度の班で50cmなので、1本で2班分です。）
  - 約1mの丸太を半分の約50cmに切り分けるのは、来所して、活動時間までに団体側（先生、リーダー）で行っていただきます。
  - 「焼き杉コースター」の指導に入る施設職員と、活動場所の確認、説明開始時刻の確認をします。
- ※指導内容は、安全面の指導と活動の円滑進行の見届けです。活動が軌道に乗りましたら、団体の先生方で進め、片付けと貸し出し物品の返却までお願いします。

## 【利用団体へ貸し出す物】

- ①のこぎり（ゼットソー）各班に1本  
※のこぎり刃の破損を想定して、予備ののこぎり（2～3本）をプラスしてお貸しします。
- ②ワイヤーブラシ 各班に2～3本
- ③ガスバーナーヘッド 1クラスで3個程度  
ガスバーナーは団体内で共用です。

**▲各班にバーナー1個は指導者の目が行き届きませんので禁止します。**

- ④ブルーシート  
（焦げた所を落とす場所用）1枚  
※敷地の隅や、すすが目立たない地面に自然に還すやり方でも結構です。  
※ワイヤーブラシで落とした焦げの粉の掃除をていねいにしないと、その場所に黒く跡が残り、非常に汚くなってしまいます。焦げ粉をブルーシートの上で落とし、後片付けも簡単にしてもらうために、ブルーシートを貸し出します。

## 【作成の手順 概要】



- ①丸太を切ります。（班の仲間で協働作業）
  - ・のこぎり刃で約1.5～2cmに切る仲間
  - ・丸太を押さえる仲間
  - ・声援をおくる仲間
  - ・切り出したら拍手！！
- ②バーナーで焼きます。（個人）
  - ・軍手をはめて両面、側面とも焼きます
  - ・残りの仲間は①の切る作業を続けます



- ③焼けた部分をワイヤーブラシでこすりすすを落とします。(個人)
- ・ワイヤーブラシを使って黒いすすが出なくなるまでこすりすす。
  - ・古タオルや古布を使ってこすり、表面を磨きます。



- ④完 成
- ・班の仲間の作業を手伝います。
  - ・丸太を押さえる、声援を送る等
  - ・時間の限りコースターをつくりすす。

【焼き杉コースター、施設職員指導手順】 活動場所：エクспанションハウス1F  
「フリースペース」を基本の場所とすす。

- ①活動の場所確認、トイレの場所確認をすす。
- ②完成品のコースターを見せて、活動への意識づけと使う道具への関心をもたせす。
- ③どんなけがが予想されるか、活動のリスクを知らせす。
- ▲黒く焼いてあるところから→「やけど」のおそれあり
  - ▲1 cmぐらいに輪切りにしているところから→「切り傷」のおそれあり
- ④けがの実例を知らせて、けが予防の方法を知らせす。

「やけど」・・・ガスバーナーの炎（1700℃～1900℃）そのもので皮膚を焼くことは少ないです。青い炎でブオーッと音も出ているので、熱いから危険と本能で避ける。

やけどが起きるのは、**炎を消した後のバーナーヘッド**が腕やすね、太ももなどに触れて、やけどが起きています。

バーナーヘッドが皮膚に触れないように、使う時だけ手に持ち、使わない時やその場を離れる時は、**バーナーを倒して寝かせて置く**ようにする。

当然、手に持ったまま立ち歩かない。作業を中断する時は、その都度、バーナーの炎を消す。

作業をする人の服装にも目を配りましよう。燃えやすいフリースやポリエステル製のジャンパー、雨カッパ等を着ている場合は脱がせたり、火の粉で穴があいたりするかも知らせす。

「切り傷」・・・のこぎりとはいえ、刃物です。調理に使う包丁と同じように、使うときだけ、手に持ち、手に持ったまま立ち歩きません。  
作業を中断、または終わる時は作業する場の整理整頓をした上で平らな所にのこぎりを置かせます。  
作業している仲間に不用意に話しかけない。作業者も話しかけられてものこぎりを持ったまま振り返らないようにします。

**混み合った場所での作業にならないように、まわりに目を配って活動させましょう。**

#### ⑤活動の手順を知らせる。

ア：丸太を**1.5～2 cm**の幅で切ります。※薄いと割れます。

一人では切れません。切る人、丸太を押さえる人、まわりから声かけて励ます人などのように、仲間と協力しあって切ります。

切った板のまわりについている樹皮（かわ）をはぎます。手でむけるなら取りましょう。

イ：**軍手をはめて**ガスバーナーを使い、輪切りにした板を焼いて焦がします。

ガスバーナーの炎を板に2～3 cmぐらい近づけたり離したりして、よく焦げる距離を見つけて、板の表、裏、側面、すべてを焦がします。

ウ：ワイヤーブラシを使って焦げた部分を落とします。

焼いて熱くなっていますので、十分注意して持って焼き場から移動します。

**ブルーシートの上や敷地の隅などで**焦げを落とします。焦げの粉が落ちなくなるまでブラッシングします。

エ：乾いた古タオルで、ごしごし磨きます。

自分たちの班が切り出しをしている場所へ戻り、班の仲間の作業への励ましの声かけをしながら、ごしごし磨きます。

オ：班の仲間が切る作業の手伝いをします。

丸太を押さえたり、声かけをしたりして仲間のために手伝います。

カ：時間があれば、2つ目をつくります。（時間がある限りつくります）

仲間に手伝ってもらって、2つめのコースターづくりに取り組みましょう。

#### ⑥団体の先生が実演して、のこぎりの正しい使い方を知らせます。

丸太切り用の台（2つ1組）{※木の色の台と色つきの台、2つで1組です。}の上  
に丸太を乗せ、仲間に押さえてもらいます。

はじめに、幅**1.5～2 cm**で切る所にのこぎりを軽く挽いて、**切るための溝**をつ  
くります。

次に体の正面にのこぎりがかかるように構え、**45°**の角度を保ち、**切るスピードを一定**にして切り始めます。途中で速く動かしたり、ゆっくりになるような切り方や丸太をくるくる回して切ると、切り口がガタガタになってしまいます。速く動かすすぎると、のこぎりの刃が丸太にひっかかって、折れて壊れてしまいます。落ち着いて同じスピードで切っていくことが大切です。時間は5分ぐらいかかるかもしれません。あせらず切り出しましょう。

途中で必ずくたびれます。疲れますから、その時、班の仲間が励まして切っている仲間を元気にしてあげることがとても大事です。力がもりもりわき出るような声かけをお願いしますね。

切り終わったら、一生懸命切った仲間へあたたかい拍手を送りましょう。そして、切った人は、応援してくれた仲間や丸太を押さえて手伝ってくれた仲間へ「ありがとう。」と言って感謝の気持ちを伝えましょう。

### ⑦切る作業の場所、焼く作業の場所、焦げを落とす作業の場所を知らせる。

切る作業は、ウッドデッキの所。焼く作業は、まき小屋前、タイルの所です。

切る作業場と火を扱う場を離して設定します。

焦げを落とす場所は、ブルーシート、または敷地の隅等、指定した所でお願いします。

### ⑧このあとは、団体の先生からの指示にしたがって活動を始めましょう。

【団体の先生やリーダー方をお願いすること】

#### ○後片付けの件

- ・ 掃除道具は、フリースペースに置いてあるほうきやちりとりを使います。
- ・ のこぎり、杉の樹皮などは自然の物なので、ごみとして捨てずに、建物の裏側の木の根元などに戻して、自然にかえすようお願いいたします。
- ・ ブルーシート上に集まった、ブラッシングで出た焦げの粉は、散らからないように気をつけてちりとりですくい、センターホール横の灰捨て場、もしくは自然にかえします。その際、焦げの黒が目立たないように、捨てる場所に気をつけるようお願いいたします。
- ・ 丸太切り用の台を2つ1組の台にして、台置き場へ整頓して置きます。
- ・ 自然の家が貸し出した用具（のこぎり、ワイヤーブラシ、バーナーヘッド等）は、貸し出し物品を入れるかごに入れて事務室まで運んで返却をお願いいたします。
- ・ 団体が購入した焼き杉コースター用丸太の残りは、お買い上げの物なのでお持ち帰りが基本ですが、持って帰らない場合は、集めてフリースペースの壁に積んである暖炉用まき置き場へ整頓して置いてください。

#### ○活動へのふりかえりの件

- ・ 焼き杉コースターの活動をとおして、コースターをつくることができた自分自身のがんばりや、仲間からの様々な手助け、応援、先生方からの支援を受けて完成することができたことをふりかえらせましょう。
- ・ 簡単にはできなかった切り出し作業。こわごわだったけど、先生方の見守りの中でできた焼きの作業。磨き込んでいくうちに、自分の作品ができあがっていった喜びを感じさせていきましょう。
- ・ 自然教室などで夜須高原で学んだことを記憶だけでなく、形として記録に残すことができました。保護者の方へ学んだ報告や子どもたちの記念品として活用してはいかがでしょうか。